

1月	ガーネット	ガーネットは古代から良く知られている赤色だけではなく、近年では多くのカラーバリエーションが知られている宝石です。和名は柘榴（ざくろ）石と呼ばれています。アルマンディンとパイロップとロードライトは紫色から赤色、スペサルティンとヘソナイトはオレンジ色、デマントイドとツァボライトは緑色、グロシュラーは無色をはじめ様々な色があります。
2月	アメシスト	アメシストは紫色のクォーツの事であり、和名は紫水晶と呼ばれています。歴史が古く、ギリシャ神話の中で酒の神バックスがアメシストという名の少女を水晶に変えてしまい、ぶどう酒をその水晶にかけると紫色になったという逸話が残っております。身につけるとお酒に酔わないと言われており、世代を超えて愛されている宝石です。
	クリソベリル・キャッツアイ	クリソベリル・キャッツアイは鉱物名クリソベリル（金緑石）のシャトヤンシー（キャッツ・アイ効果）を持つ宝石です。和名では猫目石と呼ばれています。キャッツアイ効果を示す宝石は様々ありますが、クリソベリルは最も美しい目が出ることで知られています。
3月	アクアマリン	アクアマリンはエメラルドと同じ鉱物名ベリル（緑柱石）の海水青色の変種です。アクアマリンはラテン語の海水（aqua marina）を意味する言葉に由来します。古くから人魚の宝物と言われ、船乗り達の御守りとされてきました。アクアマリンは比較的、無傷で大粒の石が産出されています。海水青色が濃いほど良質とされています。
	ブラッドストーン	ブラッドストーンは濃緑色の地に赤色の斑点があるジャスパーです。歴史が古く十字架に架けられたイエス・キリストの血がジャスパーの上に垂れて出来たと伝えられています。またヘリオトロープ（heliotrope）太陽を呼び戻す石とも呼ばれています。
	サンゴ	サンゴは生物起源の宝石の一つです。サンゴ礁のサンゴとは別の種類です。色は白色、桃色、赤色などがありますが、最良のものは濃い赤色（血赤サンゴ）とされています。枝珊瑚の置物は拝見という名称でも呼ばれています。主な産地は高知県沖、小笠原諸島沖、沖縄県沖、地中海沖などです。
	アイオライト	アイオライトは鉱物名コーディエライトの青色の変種です。アイオライトはギリシャ語のios(紫色)とliyhos(石)に由来しています。和名で堇青（きんせい）石です。強い三色の多色性があり、方向により青紫色、灰黄色、淡青色がみられます。コーディエライトは地質学者ピエール・ルイ・アントワーン・コルディエに因んで名付けられました。
4月	ダイヤモンド	ダイヤモンドは言わずと知れた宝石の王様です。モース硬度が10でダイヤモンドより硬いものはありません。古代ギリシア語の征服できない（adámas）に由来しダイヤモンドと名付けられました。和名で金剛石と呼ばれています。屈折率が高く分散度も高いためキラキラと輝く性質を持っています。無色透明なイメージがありますが、ファンシーカラーと呼ばれる様々な色のダイヤモンドもあります。
	モルガナイト	モルガナイトは鉱物名ベリルの変種で、ピンク色から淡紫色の色合いを持つ宝石です。ベグマタイト鉱床で産出され比較的、無傷で大粒の石が産出されています。日本を代表する桜の花の色合いを持ち合わせています。1911年にアメリカのモルガン財閥の創始者であるジョン・ピアポント・モルガンに因んで名付けられました。
5月	エメラルド	エメラルドは鉱物名ベリルの緑色の変種です。和名は緑柱石と呼ばれています。エメラルドは様々な効果があると信じられており、また美しい色合いを持つので古代から愛されてきた宝石の一つです。エメラルドはクレオパトラが最も愛した宝石でと言われており、世界最古のエジプトのエメラルド鉱山には彼女の名前が付けられています。
	ヒスイ	ヒスイは主にヒスイ輝石（ジェイダイト）から成る岩石で、良質なものは宝石として珍重されています。良く知られている色は緑色ですが、藤色、橙色、黒色など様々な色があります。日本では縄文時代の遺跡から翡翠（ひすい）の装飾品などが発掘されており、古くから愛用されてきた歴史があります。2016年には日本の国石が翡翠に制定されました。

6月	真珠	真珠は生物起源宝石ならではの神秘性を持ち、真珠特有のテリと呼ばれる光沢は光の干渉作用によるものです。その昔、真珠は天然のものしかなく驚くほど高価でした。しかし、近代において御木本幸吉が商業的な真円真珠の養殖に成功し身に着けられるジュエリーとなりました。
	ムーンストーン	ムーンストーンは長石の一種で、和名は月長石と呼ばれています。主にカボションカットに加工され、無色透明～乳白色の地に美しい白色や青色閃光がみられ、青色閃光の場合ブルー・ムーンストーンとも呼ばれています。地色がオレンジ色のものもあり、またキャッツアイ効果を示すものもあります。
	アレキサンドライト	アレキサンドライトは鉱物名クリソベリル（金緑石）の色変わりをする変種です。太陽光下では青緑色で、人工照明（白熱灯）下では赤紫色になります。変色の程度が明瞭であるほど貴重とされています。変色効果に加えてキャッツアイ効果を示すものもあり、アレキサンドライト・キャッツ・アイと呼ばれています。ロシア皇帝アレクサンドル2世に因んで名付けられました。
7月	ルビー	ルビーはラテン語で赤を意味するルベウス (rubeus) に由来し、鉱物名コランダム赤色の宝石変種です。和名では紅玉と呼ばれています。最良の色は商業的にピジョン・ブラッド（鳩の血）と称され流通しています。カボションカットに加工され光を当てると六条の線が現われスタールビーと呼ばれるものもあります。
	スフェーン	スフェーンは結晶の形がくさび状になるためギリシャ語の楔（くさび）を意味するスフェノス (sphenos) に由来し、和名では楔石と呼ばれています。楔はふたつのものを固く繋ぎ合わせる絆（きずな）の意味も持ちます。屈折率が高く、多色性も強いいためカットされると非常に魅力的な宝石となります。特に緑色のスフェーンは鮮やかで美しいです。
8月	ペリドット	ペリドットは鉱物名オリピンであり、和名ではカンラン石と呼ばれています。ペリドットは歴史が古くエジプトでは太陽の宝石と呼ばれ、ファラオたちの王冠や装飾品に使用されていました。宇宙にも存在し、石鉄隕石などに含まれることもあります。近年ではハワイ島で火山が爆発しペリドットが降ってきたことが知られています。
	スピネル	スピネルはルビーやサファイヤと外観が似ており、産出場所も同じため古くから混同されてきました。スピネルは結晶の先端が尖っているためトゲを意味するラテン語のspinella、に由来し名付けられ、和名も尖晶石と呼ばれています。色は赤色、ピンク色、紫色、青色などがあり、近年人気の宝石です。
	サードニクス	サードニクスまたは（サードオニクス）はカルセドニーの一種で、鮮やかな橙赤色の地に白色の縞状模様があるものを指します。和名で紅縞瑪瑙とも呼ばれています。縞目模様が爪の白い部分と似ているためラテン語で爪を意味するオニクス (onyx) が語源となっています。
9月	サファイヤ	サファイヤは鉱物名コランダムの赤色（ルビー）以外の宝石変種です。ブルー以外にも様々なカラーバリエーションがあります。その中でもややオレンジ色を帯びたピンク色のサファイヤはパラチア・サファイヤと呼ばれています。スター効果やカラーチェンジ効果を示すものあり様々なジュエリーに加工され、いつの時代でも人気がある宝石です。
	クンツァイト	クンツァイトは淡紫色から紫色の鉱物名スポジュメンの変種です。濃色のものには方向によって紫色、ピンク色、無色の多色性を見ることができ、クリアで鮮やかなピンク色は人々を魅了させる事のできる宝石です。1902年に発見され、鉱物学者ジョージ・フレデリック・クンツにちなんで名付けられました。
10月	オパール	オパールは遊色効果と呼ばれるきらきらと浮遊するような虹色の輝きが特徴的な宝石です。ホワイトオパール、ブラックオパール、ボルダーオパール、メキシコオパール、ハイドロフェーンオパールなど様々な種類のオパールが存在し、個々の煌めきが同じものがないと言われるほど多彩な色合いを持つ宝石です。
	トルマリン	トルマリンは色のバリエーションが最も豊富な宝石です。和名を電気石と言い、擦ると帯電する性質を持ちます。ネオンカラーが特徴的なバライトルマリンや鮮やかな色合いのルベライト、インディコライト、パーティーカラー、ウォーターメロン・トルマリンなどがあり、好みの色を選べる事のできる宝石です。

11月	トパーズ	トパーズの歴史は古く紅海のトパス島 (Topasos) に因んで名付けられたと言われています。トパーズは一般的に黄色が良く知られており、和名では黄玉と呼ばれています。黄色以外にもブルー、ピンク、ゴールド、インペリアルトパーズ (シェリーカラー) などの様々な色があります。鮮やかなブルー・トパーズは通常着色処理が施されています。
	シトリン	シトリンは黄色のクォーツの事であり、和名で黄水晶と呼ばれています。シトリンの歴史は古く、果実のシトロン (citron) の実の色に由来していると言われています。ほとんどのシトリンは通常アメシストを加熱処理をすることによって得られています。シトリンは比較的、大粒な石が得られるため、様々なカット形状がみられ、彫刻の素材としても利用されています。
12月	トルコ石	トルコ石は鮮やかな青色が神秘的であるため5000年前から装飾品として使用されてきました。その昔ペルシャで採掘されたものがトルコを経由してヨーロッパに持込まれたためトルコ石と呼ばれるようになりました。天然のトルコ石に混在して、模造品も数多く流通しています
	ラピス・ラズリ	ラピス・ラズリは人類が利用してきた最古の鉱物で、6000年前から使用されてきたといわれています。美しい濃青色が特徴的できらきら輝くパイライト (黄鉄鉱) が含まれていることもあります。和名では瑠璃 (るり) と呼ばれています。顔料でも有名で瑠璃色はこれに由来しています。ツタンカーメンの黄金マスクにもラピス・ラズリが使用されています。
	タンザナイト	タンザナイトは鉱物名ゾイサイトの青色の宝石変種であり、1967年にタンザニアで発見され、国の名前にちなんでタンザナイトと名付けられました。多色性が強く、見る方向によって青紫色、青色、ピンク色を見ることが出来ます。キャッツアイ効果を示すものもあります。タンザナイトは20世紀に発見され人気となった新しい宝石です。
	ジルコン	ジルコンの名称は金色を意味するペルシャ語に由来するといわれていますが、黄色～赤色のジルコンは花の名前ヒヤシンスとしても知られていました。そのため和名では風信子 (ヒヤシンス) 石と呼ばれ親しまれています。屈折率が高く、輝きが強いため古くからダイヤモンドの代用品として利用されてきましたが、人造石であるキュービック・ジルコニアとはまったくの別の物です。